

震災を実際に体験した人から話を聞くのは、資料を読みよりも当時の状況が分かりやすいたと感じました。

映画は初めてみたけれど"迫力が凄くてこんな揺れが寝ている時にきたらたまらないんじゃない"と思うし、写真をみてめちゃくちゃ"大変だ"、"なんだ"とあらためて感じました。

今日の講義であらためて
阪神・淡路大震災の想いを感じました。
その当時のことを知っていることが
大切なだと思いまして。
いくつくるのかわからないので
その時への備えをしたいたと思いまして。

災害に対する備えや対策をしておこうと思えました。

震度が高いと立ってはいけない、物が飛んでくる中、机の下に隠れるなどして命を守っていきたいです。

自然災害はいつ起こるか分からず、一瞬にして当たり前の日常を奪っていく。だからこそ今ある当たり前に感謝しながら、
1日1日を大切に生きていこうと思いました。

小学校のころから聞いていた阪神・淡路大震災について改めて学ぶことができた。また、常日頃から備えておく重要性を知ることのできた良い機会でした。

自分は震災を経験したことがありませんが、
小学校の頃から毎年震災学習と共に当日の写真や
映像を見てきたので“地震は恐いものだと
認識していました。しかし、今回の授業で“恐いたけ
なくても悲しいものだと感じました。
近年、忘れてきていくこの震災と言語り継ぎ、
新しい対策をしていこうと思します。

阪神・淡路大震災 (= 1995.1月) 每年テレビで
放送するのを見たりしますが 実際 (=震災) を経験 (= 1995)
方の口を聞いて とても心に残りました。
私たちはまだ= みんなに大きな震災 (= あつい) に
二ヶ月= たくさんの人たちのはなしを聞いて見たりして
きましたが、どう (= したい) です。

阪神・淡路大震災を決して忘れずこれから震災
対策をしようと思いました。

今回の授業を通して印象に残ったことが二つあります。
一つは 阪神淡路大震災の被害の大きさです。
地震かあまる直前の映像を見て、とても印象に
残りました。二つ目は 新聞社の大変さです。
地震が起きた直前に仕事をしなければいけないことが
とても印象的でした。僕はまだ大きな地震を体験したことが
無いので、いい体験をしておわたです。

地震後の神戸新聞の社内はとても荒れており、地震の恐しさを
とても感じました。ロッカーや棚や時計やその他いろいろなものが
散乱している社内を見ると机の下にかくれることの重要さが
ひしひしと感じました。

今まで 小学校や中学校で聞いてきた言ふとは違って、震災を体験した方の
話だったので、今まで聞いてきた話より深く記憶に残りました。

神戸新聞社が今ミニト神戸になって いたり、JR六甲道駅がつぶれていたりと、
知らない事がたくさんあって、これからも地元のことを使っていきたいと思いました。
神戸新聞が使えなくなっていて、京都新聞社とかに助かりを求めて新聞を作ったと聞いて
さすがにびっくりしました。

阪神・淡路大震災の正式名称なのは淡路でも亡くなつた方々を忘れないようにするためなんだと知ることがで
きた。

私たちは阪神・淡路大震災を実際に体験はしていないが、
こんご何十年後になつても語り聞かなければならぬ出来事
なんだと実感できた。

今日の震災学習を受けて、震災の怖さを改めて実感しました。

自分は今まで震災が起きた場面にいることはありませんでしたが、実際に震災が起きたらと思うととても恐怖でしかありません。ただ、今までに震災学習を受けていたので、もし、起きたてもあせらず行動力でまよと思ひます。

生き残るための知識を得るためにには今日のような震災学習がとても大事だと思いました。
学んだことはしっかり忘れずに頭の中に残こうと思います。

震災にあった時や今の前後に何をしていたかなど本当の話を聞いて、今までよりもう少し深く震災について学べました。

震災が起きた時ポートライトが倒れていた事も今回の話で初めて知れたので良かったです。普段ならあり得ない事なので怖さを感じました。

私たちは大きな地震を体験したことか"なくて、映像や写真でしか
見たことが"ないけれど"そこから伝わる地震の怖さ、恐しさを理解
して次につなげて"きっと"つなぎました。

語り継いでいる方に感謝して自分も語り継ぐ"なければいけない"と
思いました。

今回の話を聞いて、やはり震災は怖いな
と感じました。自分では想像できない
ような事があったというのを理解し、
いつかくると思われる、南海トラフに備し、
自分にできることを考え、行動していく
です。

今日、この学習を通して新め学んだ事は2つあります。

1つ目は、地震がいつ起るか分らないということです。また、当たり前のことっていつもかと思うかも知れませんが、どうかその油断をこまへ死へと繰り返さないでください。そして2つ目は命へ繋がる対策、「備へ」はゴーンなしという言葉が心に刻まれて、急がします。

実際に地震をあじやった戸の話を聞くと、明らかに「モリ
アリ」と、自分は災害に対する準備をしておなじく思えた。
かりにまだ怖さをかかえていたのかなと思ふ。
今回の会話を聞いて、防火バッフル作り、家具を固定
するなどの自分の出来事は何が気づかれていた。

毎年震災の授業をしてきて、

体験した人の話を聞いてきたけど、新聞の話は
はじめて聞きました。

南海トラフが 30年以内に起るという話を
よく聞くので、いつ起きてもいいように、
家具の位置や避難ゲートも用意しておこうと思いました。

阪神・淡路大震災は、やっぱり怖いものだと思ふ。知られました。

もうきて欲しくはないけれど、もしも今地震災がきた時のことを考えてよこうと思ひました。

神戸市新聞。7日間：10分×5回見て、

震災の動画とか話題。今までたくさん聞けてまだ1+2。

神戸新聞。ドラマ。もう見たか、たった3。

あと、震災の怖いところを知れたと見て、11月7日。